

令和3年

目黒区教育委員会

第42回定例会会議録

(令和3年12月14日開催)

第42回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 令和3年12月14日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会教育長	関根義孝
	教育委員会教育長職務代行者	笹尾敦夫
	教育委員会委員	松村真理子
	教育委員会委員	川嶋春奈
	教育委員会委員	片山 寛

出席職員	教育次長	谷合祐之
	教育政策課長	濱下正樹
	学校統合推進課長	関 真徳
	学校ICT課長	今村茂範
	学校運営課長	香川知子
	学校施設計画課長	岡 英雄
	教育指導課長	竹花仁志
	教育支援課長	細野博司
	統括指導主事	石邑由紀子
	統括指導主事	工藤邦彰
	生涯学習課長	高山和佳子
	八雲中央図書館長	伊藤信之

書記		佐藤洋一
		森高健二郎

(議事日程)

日程第1	協議事項	区立中学校の統合方針の改定について
日程第2	報告事項	令和3年度目黒区手をつなぐ親の会と教育委員会の懇談会の実施結果について
日程第3	報告事項	教育委員会名義の使用承認状況について

(午前9時30分開会)

- 教育長 令和3年第42回目黒区教育委員会定例会を開会します。本日の欠席委員、欠席職員はいません。署名委員は、松村委員です。
- それでは、日程第1を議題とします。

(日程第1 区立中学校の統合方針の改定について(協議事項))

- 学校統合推進課長 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等がありますか。
- 特にないようですのでこの協議を了承します。
- 次に日程第2を議題とします。

(日程第2 令和3年度目黒区手をつなぐ親の会と教育委員会の懇談会の実施結果について(報告事項))

- 教育支援課長 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等がありますか。
- 委員 この懇談会ですが、コロナ禍以前から年1回の実施なのでしょうか。また、時間を短縮して行った旨の説明がありました。コロナ禍の状況が改善しても引き続き短縮して実施するのでしょうか。今回短縮しての実施が好評だとしても、保護者は話したいことがたくさんあると思いますので、開催時間を長くして実施していただきたいです。

最後に、資料1の2ページの「③教職員への障害者理解啓発」で、通常学級の教職員の心ない言動についての記載がありますが、特別支援学級に通学する児童の保護者からその旨の言動があったとする声が多くあるのでしょうか。

- 教育支援課長 懇談会の開催については、平成21年度及び平成23年度に開催した後、平成25年度から毎年度開催し、今年度で11回目の開催となります。

次に、開催時間の短縮についてですが、今回は感染症対策のため開催時間を短縮しましたが、感染状況が改善すれば、従前の開催時間に戻したいと考えています。

最後に、資料1の2ページの③教職員の理解啓発については、

例えば、特別支援学校や特別支援学級「適」のお子さんが通常の学級に在籍している場合に、教員が心ない発言をすることがあると保護者から指摘を受けたことがあります。多くはありませんが、そのような発言をする教員がいたということは把握しており、事実確認ができた場合は、当該教員へ指導を行うなどの対応をしています。

○委員 資料1の6ページの④の要望に対する教育支援課の回答で、特別な支援を要する児童・生徒は増加傾向にある旨の記載があります。これは近年続いている傾向だと説明がありましたが、その原因について事務局の見解を教えてください。また、この増加傾向が教員の負担の増加にも繋がっていると考えていますが、事務局としてどのような対策を検討しているのか教えてください。

○教育支援課長 特別な支援を要する児童・生徒の増加傾向についての見解ですが、原因を特定することはできません。ただ、その一つの要因と考えられるのは、特別な支援を要する子どもや障害のある子どもについての理解が進んできたことがあります。例えば、特別支援教育支援員を配置するかどうかを保護者に尋ねますと、以前は、障害があることを認めないということで断るケースも少なからずありました。しかし、最近では区が取り組んでいる「心のバリアフリーの推進」の理解啓発が進み、保護者が支援員の配置を希望するケースも増えています。また、保護者の理解が進んだことで、発達検査を積極的に受検するようになり、その結果に応じて必要な支援を受けるようになったことも増加の要因ではないかと考えています。

次に、教員の負担の増加については、確かに特別な支援を要する子どもが増加すれば、教職員の負担も増加します。その対応としては、通常の学級に在籍している場合は、特別支援教育支援員を配置することで、教員が授業に専念できるように支援しています。また、小学校・中学校全校に特別支援教室を設置しており、感情を上手く表現できないなどの課題を持つ児童・生徒は、特別支援教室に通い、友達とのコミュニケーションや学校生活への適応に向けて自立活動の指導を行い、改善に取り組んでいます。

○委員 今の説明を受けて、特別な支援を要する児童・生徒が増加傾向にあるのは、特別な支援への理解が進むとともに、判断方法が進

化したことから、暗数の部分が浮き彫りとなったものだと理解しましたが、この資料の「特別な支援を要する児童・生徒は増加傾向にある」という文章だけですと、誤解を生むおそれがあります。説明された内容に基づき、資料の見直しをしてほしいと思います。

○教育支援課長 委員のご指摘のとおり、増加傾向の一言では誤解を招くおそれがありますので、今後はできるだけ状況が伝わるよう表記に気を付けたいと思います。

○教育長 資料2の11ページの一番下の手をつなぐ親の会の発言で、「最近、目黒区手をつなぐ親の会の方には、区内の普通級や支援級に通わせている方の入会数がとても増えています」と記載されています。この会の会員数と会員の子どもの構成を教えてください。

○教育支援課長 担当所管である障害施策推進課に確認している会員数は、約280人ですが、子どもの構成等については、把握していないということでした。

○教育長 目黒区手をつなぐ親の会は、東京都手をつなぐ親の会の支部組織という説明がありましたが、沿革としてはその逆で、戦後、都内各地域に様々な会が発足し、その連合体として東京都手をつなぐ親の会という組織ができており、目黒区手をつなぐ親の会は昭和33年に、東京都手をつなぐ親の会は昭和36年に発足しています。

○教育長 その他ご質問等ありますか。
特にないようですのでこの報告を受けました。
次に日程第3を議題とします。

(日程第3 教育委員会名義の使用承認状況について(報告事項))

○生涯学習課長 (資料により説明)

○教育長 この件についてご質問等ありますか。
特にないようですのでこの報告を受けました。

○教育長 その他なにかございますか。
以上で本日の定例会を閉会します。

(午前9時58分閉会)